「日々の理科」(第 3982 号) 2025, -7, -2 「高知紀行 (8)」

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋 Chihiro Tanaka

四国本土の宿毛市片島と離島の沖の島を結ぶ、宿毛 市営の連絡船は、3か所の港に寄港する便が、一日に 二便あります。

V	片島		母島	弘瀬	鵜来島	
第	7:00	発	直	航	着	
便	9:25	着	8:35	8:20	発	7:50
第一	14:30	発	15:20	15:35	着	16:05
便	16:55	着	直	航	発	

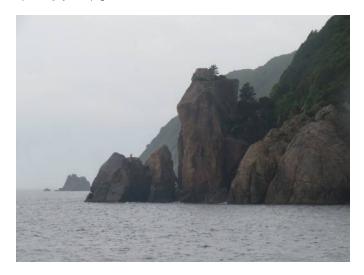
これが時刻表です。本土から島に行く場合も、島から本土に行く場合も、日帰りで往復できるダイヤになっています。しかし、たとえば1便で島に渡って、天候が悪化した場合、2便が欠航すると島に1泊することになってしまいます。幸いこの日は1便も2便も時刻表通りに運行してくれました。



最初に寄港するのは「鵜来島(うぐるしま)」です。 周囲は 7km 足らず、人口は 20 人程度、小中学校も休 校中、自動車も商店もないそうです。しかし地質的に は中生代白亜紀(約1億年前)の堆積岩で、大変興味 深いです。アンモナイトの時代なので、化石が見られ るかも知れません。次回はゆっくり見たいです。



島は断崖に囲まれていて、港の周辺にある集落以外 には人は住んでいません。自動車の通れる道も1本も ないそうです。



断崖は浸食が進み、尖峰化している岩も見られます。 この尖峰の岩石の中にも白亜紀の化石があるかも知 れません。



鵜来島をあとにした船は、沖の島へと急ぎます。このあたりは波が荒いことが多いそうですが、この日は 池のように静かで、ほとんど揺れませんでした。



10分も航行すると、目的地の「沖の島」に近づいてきます。やはり少し波が出てきました。



沖の島は主に3種類の岩相で構成されています。島の南西側は、付加体堆積岩の地層で、波浪による浸食で海食崖を形成しています。何か所か洞窟(海食洞)も見られますが、容易には近づけないでしょう。



堆積岩(新生代古第三紀)の白い岩石が海上に突き 出したところが「白岩鼻(岬)」です。岬の崖の上に は、神社と展望台があります。



沖の島には3つの港があり、この連絡船はそのうち 2か所に寄港します。まず南側の「弘瀬港(ひろせこ う)」に寄ります。小さな集落ですが、簡易郵便局も あります。



沖には「姫島」が見えます。この島は現在無人島で、 釣船が往来しているそうです。



白岩鼻を回り込むと、海岸の岩石の色が明らかに変化します。これは新生代新第三期の花崗岩です。赤く見えるのは表面が風化変質しているからでしょう。